

ほぼすべての分類で 県平均を上回っています！

～学力の着実な定着を維持～

福岡市教育委員会
指導部学校指導課

1 福岡県における学力・学習状況調査（国語、算数・数学）【福岡市】

- (1) 実施期間 平成23年9月27日（火）～10月7日（金）
- (2) 対象 小学校第6学年 約12,300人（特別支援学校を含む）
中学校第3学年 約11,000人（特別支援学校を含む）
- (3) 調査の内容 教科に関する調査
（小学校：国語、算数 中学校：国語、数学）
※ それぞれ主として「知識」に関するA問題、主として「活用」に関するB問題
- (4) 調査の方法 国が作成した平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等を活用した悉皆調査
- (5) 調査の結果

① 教科に関する調査結果

ア 平成23年度調査結果（平均正答率）

		国語A	国語B	算数A	算数B
小学校	福岡市	78.7	43.8	81.4	47.0
	福岡県	78.1	41.8	81.4	44.9

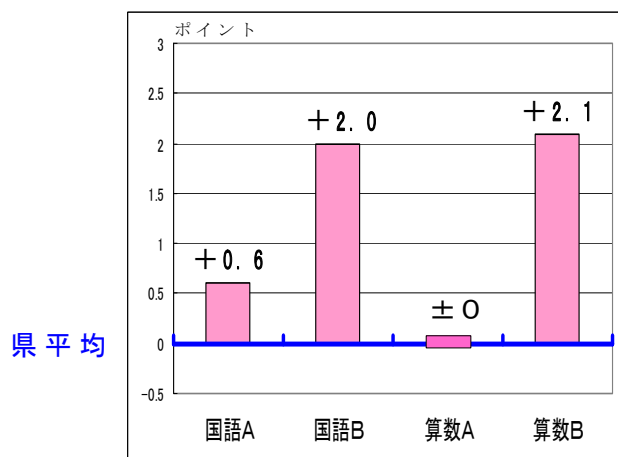
※平均正答率：児童生徒の平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）

		国語A	国語B	数学A	数学B
中学校	福岡市	81.4	67.9	61.7	54.6
	福岡県	80.0	65.1	59.3	51.9

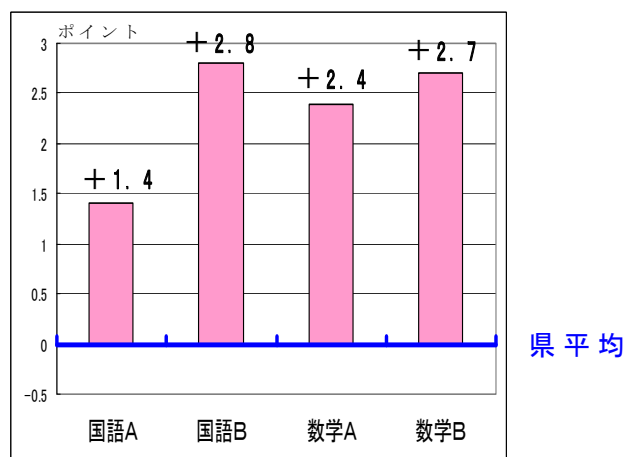
※平均正答率：児童生徒の平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）

イ 福岡県と福岡市の正答率の比較

<小学校>



<中学校>



※県の平均正答率を0として市の平均正答率と比較

ウ 各教科の状況

本年度の正答率に見られる顕著な状況

校種	教科区分	正答率が高い問題	正答率	正答率が低い問題	正答率
小 学	国語 A	・漢字の読み（移動） ・スピーチの内容で適切なものを選択	99.2 94.8	・主語を置き換えた記事の書き直し ・主語と述語との照応	40.8 61.4
	国語 B	・司会の発言の選択 ・意見の共通点と相違点を整理して書く	61.8 56.7	・考えと理由を書く ・条件に合わせた言葉の書き出し	28.1 31.9
校	算数 A	・棒グラフの読み取り ・（ ）を用いた計算 ・ひし形の定義や性質	99.0 93.4 93.4	・百分率の意味の理解 ・平行四辺形の求積	46.8 68.0
	算数 B	・目的に応じて表から読み取る ・荷物のサイズを表から読み取る	79.4 68.5	・比較量の大小についての証明 ・図形の形と大きさを判断して記述	10.2 11.8

校種	教科区分	正答率が高い問題	正答率	正答率が低い問題	正答率
中 学	国語 A	・単語の活用（形容動詞） ・文章の展開に即して内容を捉える	95.5 95.0	・漢字の書き取り（検討） ・話し合いの方向を捉えて適切に発言する	31.8 57.1
	国語 B	・図表を用いた文章の内容の理解 ・段落相互の関係の理解	95.2 82.5	・読み取った内容を提示された形式で記述 ・考えを論理的に書く	44.3 44.4
校	数学 A	・絶対値の意味の理解 ・平行線に交わる角の性質の理解	90.7 86.9	・三角形の外角の和の証明 ・中央値の意味の理解	27.2 28.7
	数学 B	・グラフからの必要な情報の読み取り ・事象の数学的な解釈	79.1 77.6	・判断の理由を数学的な表現で証明 ・範囲の意味の理解に基づく表の読み取り	32.9 34.4

② 各教科の状況分析

<小学校国語>

A問題

漢字の読みと書き取り，スピーチの内容の取り上げ方のよいところを選択する問題の正答率が高いが，主語を置き換えて文章を書き直す問題や主語に対応する述語を選択する問題の正答率は低い。

B問題

司会の発言の意図を選択する，共通点と相違点を整理して書く問題の正答率が高いが，相手の意見を取り入れて自分の考えと理由を書く，伝記を読んで書き手の違いに着目して自分の考えを深める問題の正答率は低い。

<小学校算数>

A問題

棒グラフから数量が最も大きい項目を読み取る，()を用いた整数の計算，図形の中からひし形を選ぶ問題の正答率が高いが，百分率を使って人数を求める，はかりの目盛りを読む問題の正答率は低い。

B問題

変化に着目して表を読み取る，直方体の3辺の合計をもとに表にあてはめる問題の正答率が高いが，グラフから読み取った訳を記述する，長方形の紙を折ってできた四角形の形について説明する問題の正答率は低い。

<中学校国語>

A問題

形容動詞を活用させる，文章の展開に即して内容を捉える問題の正答率が高いが，「検討」の漢字の書き取り，話し合いの方向を捉えて適切に発言する問題の正答率は低い。

B問題

文章を読み取り正しい内容を選択する，説明的文章を読んで段落相互の関係を選択する問題の正答率が高いが，読み取ったことを提示された形式で書く，書かれた情報をもとに考えと理由を書く問題の正答率は低い。

<中学校数学>

A問題

絶対値が5である負の数を書く，錯角に着目し角の大きさを求める問題の正答率が高いが，三角形の外角の和の証明について正しいものを選択する，中央値について選択する問題の正答率は低い。

B問題

変化する量をグラフから読み取る，連続する3つの数字の和を式で表す問題の正答率が高いが，ヒストグラムをもとに数学的な表現を使って証明する，表から範囲を読み取る問題の正答率は低い。

問い合わせ先

福岡市教育 指導部 学校指導課

課長 穴井 福代

TEL 092-711-4639